

えば立石と皆様の御愛顧をうけたわけである。(中略)当麻寺の大地蔵菩薩像(木彫)や、円城寺の千手観音像(木彫)の梱包と輸送には苦心した。

また、高野山宝物展の時には、高野山霊宝館などで出品物を梱包し、電車で運ぶためにケープルカーで極楽橋まで運び下ろした所、(略)終電車ならばという事で、難波には11時過ぎ、トラックに積み替えて美術館に搬入したのは夜半過ぎであった。返却時は客車一両が提供され、ケープルカーも特別運転をしてもらった。(中略)

敗戦後は米軍が占領して、美術館事務は難波の精華小学校で行われ、有名無実の状態が続いた。倉庫は嚴重に管理されていて寄託品は健在であり、再び国宝や重要美術品が続々と出品されるようになって、館も昔日の姿を取り戻す事になった。従って私の仕事も昔の如く多忙になったけれども、トラックは木炭車が多くて、故障は多くノ口

ノ口していて、坂道になれば後押しをする有様であった」。

立石さんというすごい人が富島運輸におられて、当社をやめてから市立美術館の職員さんになられて美術品全般を取り扱うサポートをしておられたようです。

昔の富島組は美術品だけではなく、海運もやっていた、今でも、富島運輸というのは、いろいろな所にあります。亀甲マークで元は一つだったものが、それぞれに独立した会社になりました。

美術品専門の運送業として

今は、トラック5台で美術品の運送は勿論ですが、普通の運送屋さんみたいに、毎日荷物を運ぶという事はありません。

作業が主な仕事になります。美術館や博物館に行つて、展示してある品を扱う事になります。梱包方法にはルールがありますし、其々で違いますので臨

機応変に対応する事になります。特に仏様を取り扱う場合は気を使います。御本尊は御性根を抜いて戴き、無住寺の場合は檀家さんの前で扱いますので、緊張はします。仏様は基本、寝かして運びますので、船を作つていきますが、個々に形が違いますからその都度緊張して対応します。

今は電話やメールでお話を頂くと、写真や寸法を頂いて予め梱包用の箱をつくって持つて行きます。知識経験のある先生方からお話を頂くと安心で、言われたとおりに作つて行くだけで間に合いますが、困るのは、寸法が違っている事がたまにあるので、今までの経験から方が一を想定して、余裕をもつて作っていきます。また、飛び込みで依頼を頂いた時も大変な事があります。どうしても解らない場合は、先ず現地に出かけて行つて調べさせて頂きます。

焼き物でも、立派な品書きの桐箱があれば、そのまま梱包

しますが、桐箱の紐の結び方も決まっています。新人の頃に蝶々むすびをして注意されました。裸の場合は、それぞれに合わせてケースを作ります。

立石さんがおられた頃は、人と人とのつながりで仕事をしていたようですが、今では、市立美術館の仕事も入札となりました。

